NHKアクセント辞典　“新辞典”への大改訂 ③

「数詞＋助数詞」の発音とアクセント

～変化の動向と新辞典への反映～

メディア研究部　滝島雅子

『NHK日本語発音アクセント新辞典』（2016年5月発行）への改訂作業の柱の1つである付録部分（解説・資料編）のうち，最大のコンテンツが「数詞＋助数詞の発音とアクセント一覧表」である。今回の改訂では，放送現場からの強い要望に応えて，放送でよく使われる助数詞や発音・アクセントに迷う助数詞を新たに項目に追加し，これまでの，数詞「1～10」に加えて，「11～100，1,000，10,000」や「何（なん）」に助数詞が付いた場合の発音・アクセントも示すなど，大幅に内容を充実させた。また，アナウンサーへのアクセント調査の分析や，語ごとの丹念な検討結果を反映させ，現代の放送に，よりふさわしく違和感のない発音・アクセントに一新させた。その内容と特徴を詳しく解説する。今回のアクセント辞典の大改訂で「一覧表」に反映させた内容から，「数詞＋助数詞の発音・アクセント」の変化が一層「単純化」の方向へ推移している傾向がうかがえる。その一端も報告・解説する。

1. はじめに

「1本，2本，3本…」「1キロ，2キロ，3キロ…」などの，数詞に「ものや事柄を数えることば」（助数詞や単位）が付いた場合の発音とアクセントは，かなり複雑である。放送現場からの問い合わせも多く，特に日々ニュースやナレーションに向き合うアナウンサーにとっては，「数詞＋助数詞」をどのような発音・アクセントで読むかは日常的な問題である。「アクセント辞典の助数詞アクセントを充実させてほしい」というアナウンサーの声も以前から多かった。2008年10月にNHKの全国のアナウンサーを対象に実施したアンケート調査[1)]でも，自由記述でアクセント辞典への要望が多数寄せられたが，「数詞が11以上の場合の発音・アクセントも載せてほしい」「『羽』（ワ・バ・パ）など複数の読み方があるものの優先順位を付けてほしい」「新たに『便』や『袋』なども載せてほしい」など，「数詞＋助数詞のアクセント」に悩む立場から，切実な声が目立った（坂本（2009））。

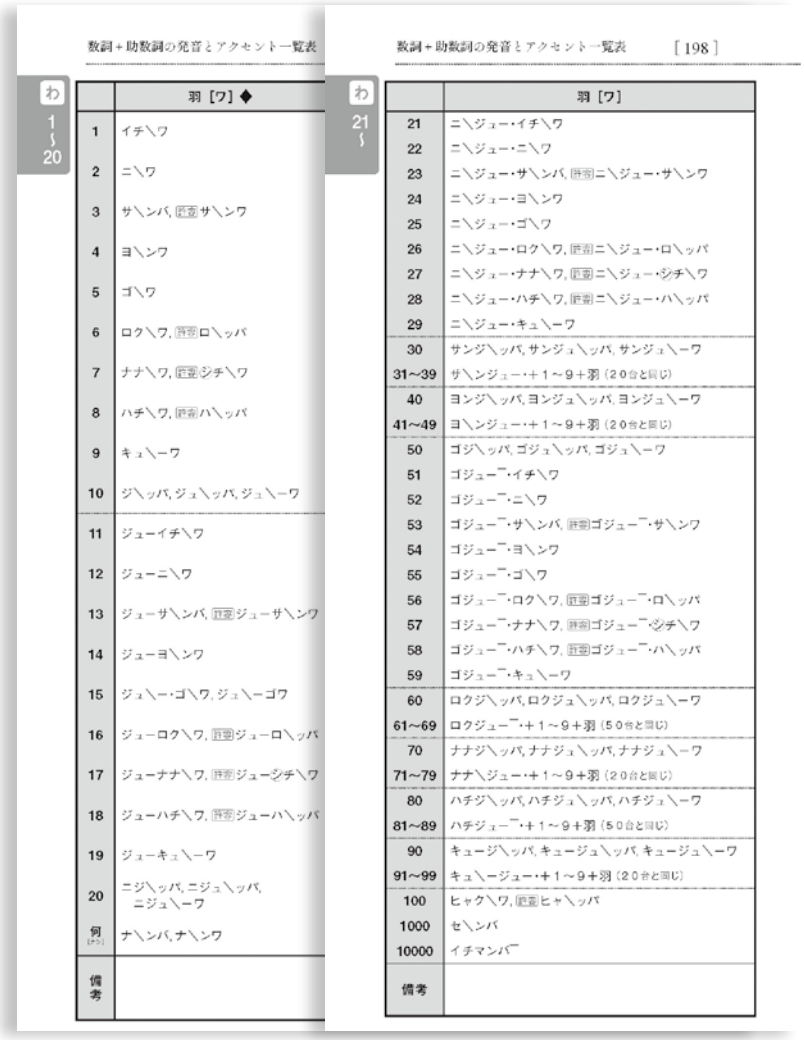
今回の『NHK日本語発音アクセント新辞典』（以下，『新辞典』）では，こうした放送現場の声を反映させるとともに，日本語学習者をはじめ幅広いニーズに応えようと，数詞が「11」以上の場合の発音・アクセントも掲載するなど，巻末付録の「数詞＋助数詞の発音とアクセント一覧表」（以下，「一覧表」）を大幅に充実させた。総ページ数は，これまでの4倍にあたる117に至った。はじめに，その特徴を紹介する。

2.『新辞典』の「数詞＋助数詞の発音とアクセント一覧表」の特徴

2.1 追加した助数詞・削除した助数詞

まず，これまでの『NHK日本語発音アクセント辞典』(1998)（以下，『98年版』）の巻末付録にある「一覧表」の助数詞の項目のうち，現代生活ではあまり使われないもの（「オーム」「毛（もう）」など），限られた数詞にしか使われないもの（「ひとつき，ふたつき」の「月（つき）」など），発音・アクセントにゆれがないもの（「学級」など）を削除した。一方，アナウンサーからの要望が強かった助数詞（「便（びん）」「カップ」など）を新たに加え，最終的に258項目の助数詞や単位の発音・アクセントを掲載した。

図１ 『新辞典』の「数詞＋助数詞の発音とアクセント一覧表」



数詞＋助数詞の発音とアクセント一覧表

わ 1〜20

	羽［ワ］◆
1	イチ＼ワ
2	ニ＼ワ
3	サ＼ンパ，[匠変]サ＼ンワ
4	ヨ＼ンワ
5	ゴ＼ワ
6	ロク＼ワ，[許容]ロ＼ッパ
7	ナナ＼ワ，[匠変]シチ＼ワ
8	ハチ＼ワ，[匠変]ハ＼ッパ
9	キュ＼ーワ
10	ジ＼ッパ，ジュ＼ッパ，ジュ＼ーワ
11	ジューイチ＼ワ
12	ジューニ＼ワ
13	ジューサ＼ンパ，[匠変]ジューサ＼ンワ
14	ジューヨ＼ンワ
15	ジュ＼ー・ゴ＼ワ，ジュ＼ーゴワ
16	ジューロク＼ワ，[匠変]ジューロ＼ッパ
17	ジューナナ＼ワ，[許容]ジューシチ＼ワ
18	ジューハチ＼ワ，[許容]ジューハ＼ッパ
19	ジューキュ＼ーワ
20	ニジ＼ッパ，ニジュ＼ッパ，ニジュ＼ーワ
何［ナン］	ナ＼ンパ，ナ＼ンワ
備考	

数詞＋助数詞の発音とアクセント一覧表 ［198］

わ 21〜

	羽［ワ］
21	ニ＼ジュー・イチ＼ワ
22	ニ＼ジュー・ニ＼ワ
23	ニ＼ジュー・サ＼ンパ，[許容]ニ＼ジュー・サ＼ンワ
24	ニ＼ジュー・ヨ＼ンワ
25	ニ＼ジュー・ゴ＼ワ
26	ニ＼ジュー・ロク＼ワ，[匠変]ニ＼ジュー・ロ＼ッパ
27	ニ＼ジュー・ナナ＼ワ，[匠変]ニ＼ジュー・シチ＼ワ
28	ニ＼ジュー・ハチ＼ワ，[匠変]ニ＼ジュー・ハ＼ッパ
29	ニ＼ジュー・キュ＼ーワ
30	サンジ＼ッパ，サンジュ＼ッパ，サンジュ＼ーワ
31〜39	サ＼ンジュー・＋１〜９＋羽（２０台と同じ）
40	ヨンジ＼ッパ，ヨンジュ＼ッパ，ヨンジュ＼ーワ
41〜49	ヨ＼ンジュー・＋１〜９＋羽（２０台と同じ）
50	ゴジ＼ッパ，ゴジュ＼ッパ，ゴジュ＼ーワ
51	ゴジュー¯・イチ＼ワ
52	ゴジュー¯・ニ＼ワ
53	ゴジュー¯・サ＼ンパ，[許容]ゴジュー¯・サ＼ンワ
54	ゴジュー¯・ヨ＼ンワ
55	ゴジュー¯・ゴ＼ワ
56	ゴジュー¯・ロク＼ワ，[匠変]ゴジュー¯・ロ＼ッパ
57	ゴジュー¯・ナナ＼ワ，[許容]ゴジュー¯・シチ＼ワ
58	ゴジュー¯・ハチ＼ワ，[匠変]ゴジュー¯・ハ＼ッパ
59	ゴジュー¯・キュ＼ーワ
60	ロクジ＼ッパ，ロクジュ＼ッパ，ロクジュ＼ーワ
61〜69	ロクジュー¯・＋１〜９＋羽（５０台と同じ）
70	ナナジ＼ッパ，ナナジュ＼ッパ，ナナジュ＼ーワ
71〜79	ナナ＼ジュー・＋１〜９＋羽（２０台と同じ）
80	ハチジ＼ッパ，ハチジュ＼ッパ，ハチジュ＼ーワ
81〜89	ハチジュー¯・＋１〜９＋羽（５０台と同じ）
90	キュージ＼ッパ，キュージュ＼ッパ，キュージュ＼ーワ
91〜99	キュ＼ージュー・＋１〜９＋羽（２０台と同じ）
100	ヒャク＼ワ，[匠変]ヒャ＼ッパ
1000	セ＼ンパ
10000	イチマンパ¯
備考	

《『新辞典』で追加された助数詞・単位の一覧》

アンダー，イニング，ウォン，カップ，区画，元（げん），語，シーベルト，品（しな），セット，チーム，兆，通（つう），棟（とう），ドル，パック，品（ひん），便（びん），袋，分咲き，分袖，ヘクトパスカル，ベクレル，ミリ，ユーロ，レーン，話（わ）

東日本大震災以降，ニュースなどでの使用が目立つ「シーベルト」や「ベクレル」といった放射線関連の単位や，日常生活でよく使う「カップ」「セット」「パック」などの外来語の助数詞も追加した。飛行機を数える「便（びん）」のアクセントについては，航空会社の客室乗務員などへの調査も参考にして，今回初めて発音・アクセントを示した[2)]。

2.2「11」以上の数詞にも対応

『98年版』の「一覧表」では，「1 ～ 10」の数詞に限定して，助数詞が付いた場合の発音・アクセントを示していたが，アナウンサーから「11以上の数詞の場合も示してほしい」という要望が強かったことから，掲載したすべての項目で「20」までの数詞と「何（なん）」に助数詞が付いた場合の発音・アクセントを示した。そのうち，特に使用頻度が高い49項目については，さらに数詞「21 ～ 100」「1,000」「10,000」に助数詞が付いた場合の発音・アクセントも示した（**図1参照**）。

「11」以上の数詞のうち，以下に述べる「15（一部，14と19も）」や「21 ～ 99」（10の倍数は除く）に助数詞が付く場合については，アクセントのまとまりが「1単位」ではなく「2単位」[3] からなると判断して，単位と単位の間に“・”（中点）を付けて示した。以下に考え方を示す。

2.2.1「15（14, 19）＋助数詞」の発音・アクセント

数詞の「15［ジュ＼ーゴ］」（一部，14［ジュ＼ーヨ］と19［ジュ＼ーク］も）に2拍以下の助数詞などが付く場合のアクセントは，『新辞典』の「一覧表」では以下のように示した。

例）

「15日」ジュ＼ー・ゴ＼ニチ，ジュ＼ーゴニチ

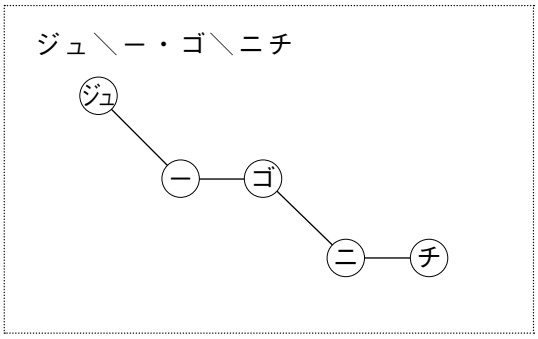
「14円」ジュ＼ー・ヨ＼エン，ジュ＼ーヨエン

「19人」ジュ＼ー・クニ＼ン，ジュ＼ークニン

上記の第1アクセントの“・”（中点）は，「ここでポーズを置く」という意味ではなく，あくまで便宜的に「単位と単位の切れ目」を示す役割を果たすものである（塩田（2016））。

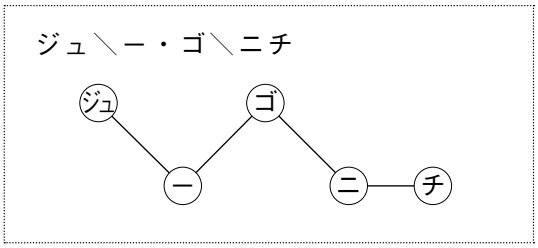
例えば「15日」の実際の音調は，おおむね次のa）のようになる。ふつうに発音する際には，“・”でポーズを置いたり，後部要素の頭で立て直したりせずにそのまま読む。

a）



ただし，「数字＋助数詞」の場合は，「数字」を強調して読む場面も多く，その場合は，b）のように，後部要素で立て直して読んでもかまわない[4]。

b）



つまり，［ジュ＼ー・ゴ＼ニチ］のアクセント表記は，上記a）b）2つのアクセントを含む“幅のある”アクセントを示している。

一方で，こうした語については，『98年版』までは，1単位の［ジュ＼ーゴニチ］を，伝統的なアクセントとしてきた。これは本来，a）の音調の1つとして，［ジュ＼ー・ゴ＼ニチ］のアクセントの中に含まれるものである（『98年版』までは，2回目以降の音の下降は，相対的に小さいとして，アクセント記号上は

示してこなかった）が，『新辞典』で2単位で示すことで，従来のアクセントが使えなくなるという誤解を防ぐため，今回は，あえて2番目に［ジュ＼ーゴニチ］も掲載した。

「15＋助数詞」のアクセントについては，近年，若い世代を中心に「15分［ジューゴ＼フン］」「15日［ジューゴ＼ニチ］」など，［ゴ］までを高く発音するケースが増え，「従来のアクセントと違う」として視聴者から指摘を受けるなど，しばしば問題となってきた。こうしたアクセントは，増加傾向にあるものの（最上（1999）），放送上は，アナウンサーの規範意識により多数派に至っていないことから，『新辞典』にも掲載しなかった。

なお，「15（14，19）＋助数詞」のアクセントは，あとに付く助数詞の拍数や性質によってさまざまなパターンがあり複雑である。個別のアクセントについては，『新辞典』の「一覧表」を参照してほしい[5]。

2.2.2「「21～99」＋助数詞」の発音・アクセント

数詞「21～99」（10の倍数は除く）に助数詞が付く場合は，「十」の位の数の発音によって，以下の2つのパターンに分類できる。

ア）20，30，40，70，90台は，起伏式アクセントの前部要素に，後部要素（数詞＋助数詞）が付く

（前部要素）　＋　（後部要素）

起伏式	ニ＼ジュー	イチ～，ニ～，サン～，ヨン（ヨ）～，ゴ～，ロク～，ナナ（シチ）～，ハチ～，キュー（ク）～
	サ＼ンジュー	
	ヨ＼ンジュー	
	ナナ＼ジュー	
	キュ＼ージュー	

イ）50，60，80台は，平板式アクセントの前部要素に，後部要素（数詞＋助数詞）が付く

（前部要素）　＋　（後部要素）

平板式	ゴジュー￣	イチ～，ニ～，サン～，ヨン（ヨ）～，ゴ～，ロク～，ナナ（シチ）～，ハチ～，キュー（ク）～
	ロクジュー￣	
	ハチジュー￣	

イ）に関しては，例えば「51枚」のアクセントは，2単位の［ゴジュー￣・イチ＼マイ］となるが，この場合の［ゴジュー￣］は下がり目がないため，「51枚」は［ゴジューイチ＼マイ］という1単位だと捉えることもできる。しかし，［ゴジュー￣］を平板型のアクセントを持つ1単位と捉えることで，ア）とイ）の法則性を意識的に捉えることができる[6]。

「一覧表」では，ア）とイ）の2つのパターンを，20台と50台のアクセントに代表させて掲載している**（図1参照）**。

2.3 数えるものによって発音やアクセントが変わる助数詞

助数詞の中には，同じ助数詞でも数える対象によって，発音やアクセントが変わるものがある（〈順位〉を表す「位（い）」と〈旧官位〉を表す「位（い）」，〈学級〉を表す「組」と〈グループ〉を表す「組」など）。こうした語については，『98年版』でも，項目を分けて，それぞれの発音・アクセントを示していたが，今回は，新たにいくつかの助数詞についても項目を分けて示した。

以下に，例を示す（その他の数詞の場合にについては，「一覧表」を参照）。

・日〈日数〉と日〈日付〉

例）あれから24日が経った。〈日数〉

［ニ＼ジュー・ヨッカ￣，

ニ＼ジュー・ヨ＼ンニチ］

24日に会う約束をした。〈日付〉

［ニ＼ジュー・ヨッカ￣］

・選〈当選回数など〉と選〈「美しい風景〇選」など〉

例）選挙で3選を果たす。〈当選回数〉

［サンセン￣］

日本の名作3選を読む。〈〜〇選〉

［サ＼ンセン］

・点〈個数〉と点〈得点数〉

例）絵画2点を購入した。〈個数〉

［ニ＼テン］

サッカーで2点を取った。〈得点数〉

［ニテ＼ン］

・両〈車両の数〉と両〈貨幣など〉

例）この列車は，5両の編成だ。〈車両の数〉

［ゴ＼リョー］

5両を盗んで捕まる。〈貨幣〉

［ゴリョ＼ー，ゴ＼リョー］

2.4 副詞的用法の場合のアクセント

助数詞のうち，尾高型アクセントの語や，最後の拍が長音［ー］・はつ音［ン］・二重母音の副音など独立性の少ない音韻のものは，副詞的に用いられた場合，アクセントが平板型に変化する傾向がある（詳しくは，『新辞典』付録「解説・資料編」p.84を参照）。

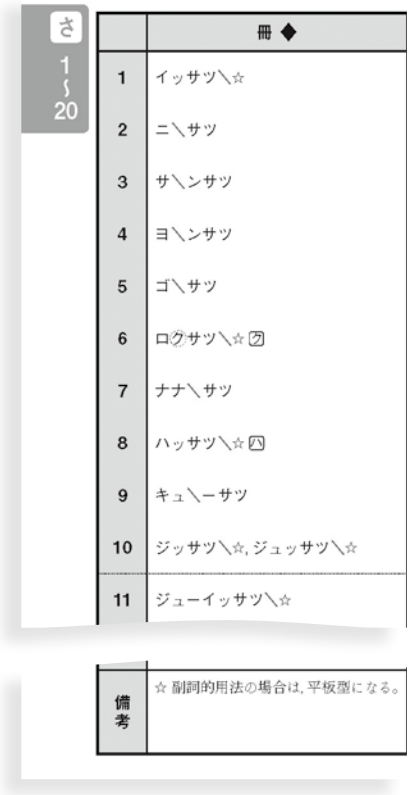
例）演奏は，あと1曲で終わりです。

［イッキョク＼］　（名詞的用法）

1曲演奏していただきます。

［イッキョク￣］　（副詞的用法）

こうした語については，『98年版』では，本文に立項のある一部の語に限り，名詞的用法と副詞的用法のそれぞれのアクセントを示していたが，「一覧表」では触れられていなかった。そこで『新辞典』では，副詞的用法でアクセントが平板型に変化するものについては，「一覧表」の備考欄で示した。例えば，書籍などを数える助数詞「冊」の項目は以下のように表示されている（『新辞典』付録「一覧表」p.114を参照）。



さ 1〜20	冊◆
1	イッサツ＼☆
2	ニ＼サツ
3	サ＼ンサツ
4	ヨ＼ンサツ
5	ゴ＼サツ
6	ロクサツ＼☆ ク
7	ナナ＼サツ
8	ハッサツ＼☆ ハ
9	キュ＼ーサツ
10	ジッサツ＼☆，ジュッサツ＼☆
11	ジューイッサツ＼☆

備考	☆ 副詞的用法の場合は，平板型になる。

ここでは，「1冊」「6冊」「8冊」「10冊」「11冊」などは，名詞として使われるときには尾高型アクセントだが，副詞的用法の場合は平板型アクセントになることがわかるようになっている。

2.5「10本」などの「十」の発音について

「10本」「20冊」「30束」など，数詞の「10，20，30，40，50，60，70，80，90」が，カ行，サ行，タ行，パ行などの音で始まる助数詞に付いた場合の発音について，『新辞典』の「一覧表」では，［ジッ］と［ジュッ］の両方の発音を並記している（第2アクセントを㊀（「ニ」のあとに音の下がり目）で示した）。

例）「10回」ジッカ＼イ，ジュッカ＼イ
「20歳」ニジ＼ッサイ㊀，ニジュ＼ッサイ㊀
「30通」サンジ＼ッツー，サンジュ＼ッツー
「40杯」ヨンジ＼ッパイ，ヨンジュ＼ッパイ

「十」の発音について，NHKはこれまでも，［ジッ］と［ジュッ］の両方の読みを認めてきた。現在『NHKことばのハンドブック第2版』（p.95）には，以下のように明記されている。

> …現在，一般には「10本」の発音は［ジッ］［ジュッ］の2つの読みが並行して行われており，どちらかを標準的と決めるのは難しい状態である。…こうした状況から，放送では両様を認めることにしたのである。

これは，昭和41（1966）年の第598回放送用語委員会で，「20世紀」の読みを「○ニジッセーキ ○ニジュッセーキ」に決定した際，「十」関連の語の読みをいずれも「○ジッ ○ジュッ」としたことによるものである[7]。

「十」の発音は，伝統的には［ジフ］であるが，室町時代以降に［ジウ］となり，さらに［ジュー］に変化して現在に至っている。ただし，「十」のあとに無声音が続く場合には，［ジッ］となるのが本来の発音だったが，［ジュー］から変化した［ジュッ］という発音も使われるようになったという経緯がある。放送用語委員会の「決定」が行われた昭和41（1966）年当時の当用漢字表には，「十」の発音に［ジュッ］は含まれていなかったが，広く一般的に発音されている実態を考慮して，NHKとしてはかなり先んじて［ジュッ］の発音を認めたのである（その後，平成22（2010）年に，常用漢字表の備考欄で［ジュッ］の発音も認められた）。

しかし，学校教科書では現在も［ジュッ］の読みを載せていないものが多いことや，伝統的な発音を重視するアナウンサーの規範意識から，放送上は現在も［ジッ］が優先されることも多い（滝島（2015））。また『98年版』の「一覧表」の［ジ（ュ）ッテ＼ン］という示し方が紛らわしいため，［ジッ］が「推奨型」で［ジュッ］は「許容型」だと受け止めている人が少なからずいることも否めない。そこで『新辞典』では，［ジッ］と［ジュッ］の双方の発音を同等に掲載し，昭和41年の「決定」に基づく方針をわかりやすく示したのである。

［ジッ］と［ジュッ］のどちらの読みを選択するかについては，現状では，読み手の志向や使う場面によるが，文化庁が行った平成15年度の「国語に関する世論調査」[8]では，「10匹」を75%の人が［ジュッピキ］と発音していると回答しており，世の中は［ジュッ］の支持率が高いようである。放送上，［ジッ］と［ジュッ］をどのように運用していくのか，今後，さらに検討が必要だと言えるだろう。

3.「数詞＋助数詞」の発音・アクセントの変化の傾向

繰り返し述べているように「数詞＋助数詞」のアクセントは，非常に複雑である。「数詞や助数詞が，和語であるか，漢語であるか，外

来語であるか，また単純語であるか複合語であるか，古くからある助数詞か，新しくできた助数詞かなどで，いくつかのグループに分かれる」（桜井・秋永（1998））が，一方で，その発音・アクセントについて，「若年層を中心に単純化・規則化が進行している」ことも，従来より指摘されてきた（秋永・馬瀬・柴田（1999））。今回，『新辞典』への改訂のための調査の結果や実際の放送から集めたデータ[9]により，その傾向は一段と強まっていることをうかがい知ることができた。

『新辞典』では，その傾向を一部反映させ，放送上違和感のない自然な発音・アクセントの掲載をめざした。

以下，主な傾向と『新辞典』での変更点を述べる。

3.1「助数詞が低く付く型」への単純化

「数詞＋助数詞」の発音とアクセントのうち，特に複雑なのは，漢字1字の漢語助数詞の場合である。このタイプの助数詞には，大きく分けて以下の4つのタイプがある。

A型：助数詞が低く付くもの（ただし，数詞の最終拍が長音・はつ音［ン］・促音［ッ］など特殊拍の場合は1拍前にずれる）。

「1位」［イチ＼イ］

「2班」［ニ＼ハン］

「3頭」［サ＼ントー］など

B型：助数詞が高く付き，助数詞の1拍目で下がるもの。

「1合」［イチゴ＼ー］

「2点」［ニテ＼ン］など

C型：助数詞が高く付き全体が平板型になるもの。

「1倍」［イチバイ￣］

「2階」［ニカイ￣］など

D型：助数詞が高く付き全体が尾高型になるもの。

「1月」［イチガ゜ツ＼］

「1着」［イッチャク＼］など

今回の『新辞典』への改訂のための調査[10]で，B型（＝助数詞が高く付き，助数詞の1拍目で下がるもの）の助数詞のうち，伝統的な助数詞「合」「銭」「貫」「畳」について調べたところ，以下のような結果が得られた（文中の①②③◎は，それぞれ語頭から数えた“下がり目”の位置を示す。①は「1拍目のあと」，②は「2拍目のあと」に“下がり目”がある。◎は平板型（＝“下がり目”がない））。

（%）

「1合」	② 100	③ 17	◎ 8	（③，◎）
「1銭」	① 100	③ 38		（③）
「1貫」	① 100	③ 23		（③）
「1畳」	② 96	③ 21	◎ 0	（③，②）
「3畳」	① 96	③ 32		（③，①）
「10畳」	① 100	③ 32		（③，①）

（カッコ内は，『98年版』のアクセント）

これを見ると，いずれの語も，最も支持を得ているアクセントは，従来のB型のアクセントではなく，A型（＝助数詞が低く付くもの）のアクセント（上表の　　）であることがわかる。A型は，漢字1字の漢語助数詞の中では最も数が多く，新しくできた助数詞はこのタイプが多い。つまり，もともとはB型の助数詞のアクセントが，長いものに巻かれる形で，数の上で最も多いA型と同じになる「単純化の傾向」の一端とみることができる[11]。

以上の結果を踏まえ，まず「畳」については表のように，第1アクセントが［○○＼ジョー］

【畳】

	『98年版』	『新辞典』[12]
1畳	イチジョ＼ー， イチ＼ジョー	イチ＼ジョー， イチジョ＼ー
2畳	ニジョ＼ー， ニ＼ジョー	ニ＼ジョー， ニジョ＼ー
3畳	サンジョ＼ー， サ＼ンジョー	サ＼ンジョー， サンジョ＼ー
4畳	ヨジョ＼ー， 許容ヨ＼ンジョー	ヨ＼ンジョー， ●ヨンジョ＼ー， 許容●ヨ＼ジョー， ヨジョ＼ー
5畳	ゴジョ＼ー	●ゴ＼ジョー， ゴジョ＼ー
6畳	ロクジョ＼ー	●ロク＼ジョー， ロクジョ＼ー
7畳	ナナジョ＼ー	●ナナ＼ジョー， ナナジョ＼ー
8畳	ハチジョ＼ー	●ハチ＼ジョー， ハチジョ＼ー
9畳	キュージョ＼ー， 許容クジョ＼ー	●キュ＼ージョー， キュージョ＼ー， 許容●ク＼ジョー， クジョ＼ー
10畳	ジュージョ＼ー， ジュ＼ージョー	ジュ＼ージョー， ジュージョ＼ー

（●は，『新辞典』で追加されたアクセント）

【銭】

	『98年版』	『新辞典』
1銭	イッセ＼ン	●イ＼ッセン， イッセ＼ン
2銭	ニセ＼ン	●ニ＼セン， ニセ＼ン
3銭	サンセ＼ン	●サ＼ンセン， サンセ＼ン
4銭	ヨ＼ンセン	ヨ＼ンセン
5銭	ゴ＼セン， ゴセ＼ン	ゴ＼セン， ゴセ＼ン
6銭	ロクセ＼ン	●ロク＼セン， ロクセ＼ン
7銭	ナナ＼セン	ナナ＼セン
8銭	ハッセ＼ン	●ハ＼ッセン， ハッセ＼ン
9銭	キュ＼ーセン	キュ＼ーセン
10銭	ジ（ュ）ッセ＼ン	●ジ＼ッセン， ジッセ＼ン， ●ジュ＼ッセン， ジュッセ＼ン

（●は，『新辞典』で追加されたアクセント）

（＝A型のアクセント。上表の　　）となるように，順番を入れ替えたり，アクセントを追加したりした。

「1銭」についても，前述したように，頭高型［イ＼ッセン］（A型＝助数詞が低く付くもの。ただし，この場合は，助数詞の直前が促音［ッ］のため1拍前にずれる）の支持率が100％だったことから，これを新たに第1アクセントに加え，ほかの数詞に関しても，実際の放送で使われているアクセントを調べた上で，［○○＼セン］（＝A型）を第1アクセントに新たに加えた。詳細は上表のとおり（　　が，A型のアクセント）。

また，「合」と「貫」については，「銭」が市況など現代生活においても使われる助数詞であるのに比べ，伝統的な場面で使われることが多いことを考慮して，第1アクセントの［○○コ゜＼ー］［○○カ＼ン］（＝B型のアクセント）はそのままとし，第2アクセントとして［○○＼コ゜ー］［○○＼カン］（＝A型のアクセント）を新たに加えた。

3.2 より規則的なアクセントへ ～「数詞＋「円」」のアクセント～

1から9までの数詞に助数詞「円」の付く語のアクセントは，従来変則的で，例えば，伝統的には，「1円・2円・3円・6円・8円」は平板型，「4円・5円・9円」は頭高型，「7円」は中高型というように，「円」の前に来る数詞によってアクセントが変わり複雑であった。しかし，『新辞典』では，「より規則的なアクセントになる方向で単純化する」傾向を反映させ，「一覧表」を以下のように変更した。

【円】

	『98年版』[13]	『新辞典』
1円	イチエン‾	イチエン‾， ●イチ＼エン
2円	ニエン‾	ニエン‾， ●ニ＼エン
3円	サンエン‾	サンエン‾， ●サ＼ンエン
4円	ヨ＼エン， 許容ヨ＼ンエン	ヨ＼エン
5円	ゴ＼エン	ゴ＼エン
6円	ロクエン‾	ロクエン‾， ●ロク＼エン
7円	ナナ＼エン	ナナ＼エン
8円	ハチエン‾	ハチエン‾， ●ハチ＼エン
9円	キュ＼ーエン	キュ＼ーエン
10円	ジューエン‾	ジューエン‾

（●は，『新辞典』で追加されたアクセント）

「数詞＋円」のアクセントが，「円」の前で落ちるアクセント［○○＼エン］（＝前述のA型）になる方向で単純化する傾向にあることは，『98年版』への改訂のための調査[14]の分析ですでに指摘されていたが（最上（1999）），「一覧表」には反映されていなかった。今回「1円」のアクセントについてアナウンサーに聞いた調査[15]では，［イチエン‾］89％，［イチ＼エン］60％という結果となり，依然，平板型の支持率が高いものの，［イチ＼エン］を支持する人が6割を超えたことから，［○○＼エン］のアクセントが定着したと判断した。1円と同じように今まで平板型のアクセントだけだった「2円，3円，6円，8円」にも，第2アクセントとして［○○＼エン］を加えて，単純化の傾向を初めて反映させた（表中の　　が［○○＼エン］）。

3.3 「20年」などの頭高型アクセントの中高型化

数詞の「20」「30」「40」「90」に助数詞が付いたときのアクセントは，数詞のアクセントが頭高型なのを引き継いで，頭高型になるのが伝統的であった。

「20」ニ＼ジュー
→「20年」ニ＼ジューネン
「30」サ＼ンジュー
→「30年」サ＼ンジューネン
「40」ヨ＼ンジュー
→「40年」ヨ＼ンジューネン
「90」キュ＼ージュー
→「90年」キュ＼ージューネン

しかし，もともと，こうした語の頭高型アクセントは，「東京弁の典型的なアクセント」（金田一（1977））であり，それが，近年，若い世代などを中心に中高型に変化する傾向にあることは，従来指摘されてきた（秋永（1999））。

1996年のアナウンサーアクセント調査[16]で

は，「30円」「30年」「40歳」の中高型を支持する人は，それぞれ85%，80%，71%と高い一方，頭高型は，8%，9%，15%と低い結果となった。また，2013年の調査[17]では，「30日」の中高型支持は98%，頭高型支持は32%だった。調査方法が，前者は日頃から自分が使っているアクセントをテープに収録する方法，後者は，当該アクセントが放送にふさわしいかどうか，○×を付けてもらう方法のため，単純な比較はできないが，一段と中高型傾向が強まっていることが推察できる。こうした「中高型化の傾向」を踏まえ，今回の『新辞典』では，慣例が強い語（年月日や時間などに関する助数詞など）以外は，中高型のみを採用し，頭高型アクセントを掲載しなかった。

数詞「20，30，40，90」に助数詞が付いたときのアクセントが中高型のみになるということは，もともと中高型だった数詞「50，60，70，80」の場合と合わせて，すべて中高型となり（下表の　　），これも「単純化」の傾向の1つと捉えることができる。

【枚】

	伝統的アクセント	『新辞典』
20枚	ニ＼ジューマイ	ニジュ＼ーマイ
30枚	サ＼ンジューマイ	サンジュ＼ーマイ
40枚	ヨ＼ンジューマイ	ヨンジュ＼ーマイ
50枚	ゴジュ＼ーマイ	
60枚	ロクジュ＼ーマイ	
70枚	ナナジュ＼ーマイ	
80枚	ハチジュ＼ーマイ	
90枚	キュ＼ージューマイ	キュージュ＼ーマイ

3.4　和語系の数詞の衰退

「アクセントの単純化」以外に，数詞の読みが和語系から漢語系に移行していることも，最近の「単純化」の傾向の1つとして挙げておきたい。

日本語の「数詞」の読み方には，主に，和語系統の読み（「ひと，ふた，み…」）と漢語系統の読み（「イチ，ニ，サン…」）がある。一般的に和語の助数詞の場合は，和語系の数詞が使われ（例「ひと切れ，ふた切れ…」），漢語や外来語の助数詞の場合は漢語系の数詞が使われる（例「イチ台，ニ台…」「イチグラム，ニグラム…」）。しかし，近年，和語系の数詞が使われなくなっている傾向が指摘されていた（坂本（2005））。

今回の『新辞典』の「一覧表」には，和語系の数詞で数える助数詞を44項目掲載したが，その多くは，「1，2」までは「ひと，ふた」と和語系の数詞で数えるが，「3」以降「サン，シ，ゴ…」の漢語系の数詞に取って代わられるパターンになっている。『98年版』では「1，2，3」まで和語系の数詞の読みを採ってきた和語の助数詞「組，桁，皿，束（たば），玉（たま），とおり」も，『新辞典』では，「3」の読みを「み」から「サン」に変更し，漢語系の数詞の読みを優先型とした。

例えば，「組〈靴下○組〉」の変更点は以下のとおり。

【組〈靴下○組〉】

	『98年版』	『新辞典』
1組	㊀ト＼クミ	㊀ト＼クミ
2組	㊁タ＼クミ	㊁タ＼クミ
3組	ミ＼クミ， 許容 サ＼ンクミ	サ＼ンクミ， 許容 ミ＼クミ

4組	ヨ＼ンクミ， 許容ヨ＼クミ	ヨ＼ンクミ， 許容ヨ＼クミ
5組	ゴ＼クミ， 許容イツ＼クミ	ゴ＼クミ
6組	ロ＼ックミ	ロ＼ックミ
7組	ナナ＼クミ	ナナ＼クミ
8組	ハチ＼クミ	ハチ＼クミ
9組	キュ＼ークミ	キュ＼ークミ
10組	ジ(ュ)＼ックミ， 許容ト＼クミ	ジ＼ックミ， ジュ＼ックミ

表内のうち，　で示した「いつくみ」「とくみ」は，使用頻度が低いとして削除した。ほかの「数詞＋助数詞」でも，和語系の読みの「よたま（4玉）」「いつかぶ（5株）」「むきれ（6切れ）」などは同じく削除した（滝島（2016））。最近，若い世代を中心に「イチきれ，ニきれ」「イチむね，ニむね」などの言い方をよく耳にする。今後，和語系数詞衰退の傾向がどこまで進むのか，注視していく必要があるだろう。

また，こうした和語系数詞の衰退の一方で，「ワン，ツー，スリー…」の英語系の数詞が勢力を拡大しつつあることも気になるところである。現在，NHKでは，英語系の読みについては，以下のように決めており，原則的には使わないことになっている。

> 「ワン」「ツー」（例　ワンシーズン，ツーケース）などの英語読みは使わない。ただし，スポーツ中継など慣用の強いものは，英語読みをしてもかまわない。
> 〈例〉ツーストライク　　スリーアウト

（『NHKことばのハンドブック第2版』p.336）

『新辞典』の「一覧表」に新たに追加した「カップ」「セット」「パック」については，英語系数詞も検討したが今回は認めなかった。しかし実際には，「ワンカップ」「ツーセット」「スリーパック」などは，日常的に使われる場面が増えており，今後，検討が必要であろう（『新辞典』では，例外として助数詞「アンダー」（ゴルフ）が数詞の「1～10」に付く場合には，英語系数詞の使用を認めている）。

4. おわりに

今回は，『新辞典』の「一覧表」が従来のアクセント辞典からどのように変わったのかを報告するとともに，現在の「数詞＋助数詞」の発音とアクセントの傾向の一端を述べた。数詞や助数詞は，人々の暮らしと密接に関わり，世代や地域，使われる場面によって複雑な様相を見せる。今後はそうした個別の数詞・助数詞の使われ方や使う人の意識の変化を観察しながら，その発音・アクセントが時代とともにどのように変化していくのか調査研究を進め，報告していきたい。

（たきしま　まさこ）

注：

1）2008年に行われた,『新辞典』改訂のための第1回調査。調査概要は以下のとおり。

【第1回　アナウンサーアクセント調査】

調査期間：2008年10月～11月

調査対象：NHKアナウンサー519人
うち回答者498人（回答率96%）

調査方法：『98年版』の中の6万9,000項目を対象に，改訂が必要と思う語について変更・追加・削除などを記入してもらう記述式。

（最後に主に自由記述のアンケートを添付）

2）2015年8月に，全日本空輸（ANA）の客室乗務員と地上アナウンス担当者各3名に調査を実施した。「1便～100便」について,「便名」と「便数」それぞれの場合を想定して読み上げてもらい,アクセントの傾向をみた。客室乗務員には,「便名」を平板式アクセント,「便数」を起伏式アクセントに読み分ける傾向がある（例:「1便」→［イチビン￣］（便名),［イチ＼ビン］（便数））が，地上アナウンス担当者は,「便名」にも「便数」にも，起伏式アクセント（［イチ＼ビン］）を使用しており，担当業務によって，アクセントの傾向が違うことがわかった。『新辞典』では，明確な使い分けは示さず，起伏型と平板型を並記したうえで，備考欄で傾向を示すにとどめた。

3）ただし,「第15番」など一部の語は，3単位。

4）ニュースの音声を視聴できる，NHK局内公開の『ニュース総合検索』で，アナウンサーのアクセントを聴いたところ,「15日」「15年」など「15＋助数詞」については，a）とb）の読み方が混在しており，b）のほうがやや多い傾向にあることがわかった。

5）『新辞典』の「15（14，19）＋助数詞」のアクセントは,『新明解日本語アクセント辞典第2版』「アクセント習得法則」を参考に，以下のような内容で掲載した。

【「15（14，19）＋助数詞」のアクセント】

（1）「15」に漢字1字の漢語（「階」「勝」などを除く）や2拍以下の和語や外来語がつくときには，以下のように，2単位と1単位の2とおりのアクセントを示す。

「15回」
ジュ＼ー・ゴカ＼イ,
ジュ＼ーゴカイ

「15部屋」
ジュ＼ー・ゴ＼ヘヤ,
ジュ＼ーゴヘヤ

「15ミリ」
ジュ＼ー・ゴ＼ミリ,
ジュ＼ーゴミリ

（2）「15」に「階」「級」「勝」「敗」「倍」などが付くものは，全体が平板型になる傾向がある。

「15階」［ジューゴカイ￣］
「15級」［ジューゴキュー￣］

（3）「15」に漢字2字以上の助数詞が付く場合は，すべて規則的で，助数詞の1拍目まで高いアクセントになる傾向がある。

「15機種」［ジューゴ㋖＼シュ］
「15海里」［ジューゴカ＼イリ］

（4）「15」に，3拍以上の和語や外来語の助数詞がつく場合は，後部が平板型・頭高型の語は後部の1拍目まで，中高型の語はアクセントの高さの切れ目まで高くなる傾向がある。

「15柱」［ジューゴハ＼シラ］
「15グループ」［ジューゴグル＼ープ］

（5）その他（特殊な語を含むものなど）

・「か（箇）」の入るものは,「か」まで高くなる傾向がある。
「15か月」［ジューゴカ＼ケ゜ツ］

・接尾辞「目」がつく場合は,「目［メ＼］」の尾高型アクセントを引き継ぎ，全体のアクセントも尾高型になる傾向がある。
「15日目」［ジューゴニチメ＼］

・接尾辞「前」や「式」がつく場合は，平板型になる傾向がある。
「15人前」［ジューゴニンマエ￣］

6）川上（1995）は，この場合の平板式アクセント［ゴジュー￣］［ロクジュー￣］［ハチジュー￣］について，複合語の最初の要素としてのみ出現する「サンディ形」として説明している。

7）ただし,数詞として使われる「10」以外の,「十戒」「十手」「十中八九」のような歴史的なことばで「十」が付く語については，平成27（2015）年6月の第1391回放送用語委員会で,「①ジッ～②ジュッ～」とするという決定がなされた。詳しくは，山下（2015）を参照のこと。

8）平成16（2004）年1月～2月に，全国の16歳以上の男女3,000人を対象に行われた調査。「十匹」について，「じっぴき」と「じゅっぴき」の2つの発音を挙げ，ふだんどちらで発音しているかを尋ねたもの。

9）4）と同じ『NHKアーカイブス・ニュース総合検索』（非公開）で，該当するキーワードをもとに検索し，実際の放送におけるアナウンサーの音声を聴くなどして調べた。

10）2009年に行われた第2回アナウンサーアクセント調査。第1回調査（2008年，指摘式）で指摘があった約1万2,000項目のうち，指摘件数が多かったものを中心として3,021項目選定し，音声を聴かせる形で，「○」（＝放送で使うのにふさわしい），「×」（＝放送で使うのにふさわしくない），「☆」（＝このことばを口に出して言ったことがない）を付けてもらった。調査概要は以下のとおり。

【第2回　アナウンサーアクセント調査】

調査期間：2009年10月～11月

調査対象：NHKアナウンサー501人
うち回答者471人（回答率94%）

調査項目：3,021項目

調査方法：20にグループ分け（若年，中堅，ベテランの割合を均等に）。局内イントラを使い，音声をランダムに聴いてもらい，型ごとに「○」「×」「☆」で回答。1人あたり325アクセント型担当。音声聴取式。

11）ちなみに「10畳」に関しては，1997年に行われた『98年版』への改訂のための第2回の調査でも調べているが，「日頃放送で使っているアクセント」として頭高型アクセント（①）を選んだアナウンサーは73%だった。調査概要は以下のとおり。

調査期間：1997年5月

調査対象：NHKアナウンサー506人
うち回答者426人（回答率84%）

調査項目：451項目

調査方法：各アナウンサーが，日頃放送で使っているアクセントに合致するものを選択肢の中から1つ選ぶ記述式。

12）実際の『新辞典』の「一覧表」では，第2アクセントは，音の下がり目を㋐などの記号を使って示しているが，ここでは，第1アクセントと同じように示した。

13）ここでは，代表的なアクセントのみを載せ，備考欄で触れている「経済市況」などで用いる発音・アクセントについては取り上げない。

14）11）と同じ調査。この調査で，「1円」を除いて，起伏式のアクセント（「2円・3円」では頭高型，「6円」では中高型）が過半数を占めた。以下，調査結果（%）：「1円」（◎76 ②24），「2円」（①69 ◎29），「3円」（①51 ◎35 ②9），「6円」（②64 ◎35）。

15）2013年に行われた第3回アナウンサーアクセント調査。第1回調査でアナウンサーから気になると指摘のあった1万2,000項目のうち，特に複数の指摘を受けた3,021項目を第2回で調査し，第3回は，残りのうち，アクセントの変更を要すると思われる語について，それぞれのアクセント型をランダムに並べ，記入式で，「○」「×」「☆」を付けてもらった。調査概要は以下のとおり。

【第3回　アナウンサーアクセント調査】

調査期間：2013年5月～9月

調査対象：NHKアナウンサー中堅・ベテラン層160人（30代後半以上）
うち回答者126人（回答率79%）

調査項目：2,521項目

調査方法：調査票に示されたアクセント型ごとに「○」「×」「☆」で回答。筆記選択式。

16）『98年版』への改訂のための第1回調査。調査概要は以下のとおり。

調査期間：1996年7月

調査対象：NHKアナウンサー523人
うち回答者439人（回答率84%）

調査項目：460項目

調査方法：調査項目を織り込んだ短文を，各アナウンサーが，日頃放送で使っているアクセントで，カセットテープに音声収録。

17）15）と同じ調査。

参考文献：

・秋永一枝（1999）「アクセントのゆれと今後の動向」『東京弁アクセントの変容』笠間書院
・秋永一枝（2014）「東京アクセントの習得法則」『新明解日本語アクセント辞典第２版 CD 付き』三省堂
・秋永一枝・馬瀬良雄・柴田実（1999）「『NHK 日本語発音アクセント辞典』改訂⑧　改訂作業を振り返って」『放送研究と調査』1999 年３月号
・NHK 放送文化研究所（2005）『NHK ことばのハンドブック第２版』NHK 出版
・NHK 放送文化研究所（2016）『NHK 日本語発音アクセント新辞典』NHK 出版
・NHK 放送文化研究所（1985）『NHK 日本語発音アクセント辞典』NHK 出版
・川上蓁（1995）「アクセント単位の大きさ，強さ」『日本語アクセント論集』汲古書院
・金田一春彦（1977）「東京語の特色」『日本語方言の研究』東京堂出版
・坂本充（2009）「『アクセント辞典』改訂への要望～現行アクセント辞典・アナウンサー全項目調査から～」『放送研究と調査』2009 年２月号
・坂本充（2005）「「3 皿」の読みは「みさら・サンさら」？」『放送研究と調査』2005 年 10 月号（「ことば・言葉・コトバ」）
・桜井茂治・秋永一枝（1998）「数詞・助数詞の発音とアクセント」『NHK 日本語発音アクセント辞典 新版』（付録「資料集・解説」）NHK 出版
・塩田雄大（2016）「発音・アクセント全般について」『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（付録「解説・資料編」）NHK 出版
・滝島雅子（2015）「「10 ＋助数詞」の読み」『放送研究と調査』2015 年２月号（「ことば・言葉・コトバ」）
・滝島雅子（2016）「和語系数詞の衰退」『放送研究と調査』2016 年７月号（「ことば・言葉・コトバ」）
・文化庁（2004）「平成 15 年度　国語に関する世論調査　情報化社会と言葉遣い」独立行政法人　国立印刷局
・最上勝也（1999）「『NHK 日本語発音アクセント辞典』改訂⑦　ニガツ（２月）のジューゴニチ（15 日）は新しいアクセントか？ ～アナウンサーアクセント調査報告⑥「数詞＋助数詞」～」『放送研究と調査』1999 年１月号
・山下洋子（2015）「放送用語委員会（東京）用語の決定」『放送研究と調査』2015 年９月号